

海外短信



～ ブラジル ～

教育・支援活動に取り組む

～ 旭硝子株式会社 ～

～ ブラジルでアイルトン・セナ財団等の活動を支援 ～

旭硝子は、ブラジルのアイルトン・セナ財団及び慈善団体であるカーサ・ベタニアと提携し、AGCガラス・ブラジル社の所在地であるブラジルサンパウロ州グアラティンゲタ市を中心に、貧困層の子供や青少年に対する教育支援活動に取り組んでいる。

1994年に故アイルトン・セナ氏の遺志により設立されたアイルトン・セナ財団は、公立学校教育を改善するためのプログラムをブラジル全土に展開しており、教育分野のNGOとしてユネスコから高い評価を受けている。旭硝子は、同財団が新たに実施するグアラティンゲタ市の公立学校の教員研修や学校教材の改善など、教育環境改善プログラムのサポートを行っている。

カーサ・ベタニアは、1976年よりグアラティンゲタ市の貧困地区に住む子供たちに食事提供や課外授業などの就学支援活動を30年以上にわたり実施している団体であり、旭硝子は同団体の定員拡充を支援するとともに、職業訓練センターの新設などを行っている。

なお、4月18日にAGCガラス・ブラジル社の工場建設地であるグアラティンゲタ市で執り行われた定礎式でこれらの活動を発表した。



AGCグループCEO石村和彦（右）とアイルトン・セナ財団代表 Viviane Senna 氏（左）

旭硝子は、発展を続けるブラジル社会での事業活動を通じ、快適で便利な生活を実現するための製品やサービスを提供するとともに、支援活動を通じ、地域社会の発展に貢献して行く。